

## 北海道戸井高等学校

課程 全日制  
学科 普通科  
生徒数 72名

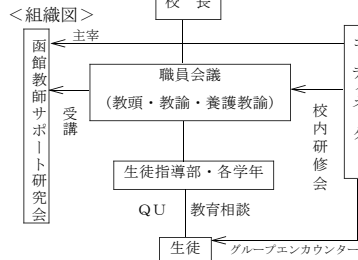
### 1 事業のねらい

ことばの使い方や対人行動の仕方が適切ではなく、生徒と生徒、生徒と教師間のコミュニケーションがうまくできない生徒が増えてきており、対人関係のトラブルが発生することも危惧される。その対策として、アサーションスキルを身に付けさせて、個人の意思伝達能力と他者を受容する態度を会得させる。

### 2 取組の経過

- 6月 校内研修会（1学年QUの事例検討会）実施
- 8月 校内研修会（3学年QUの事例検討会）実施  
2学年対象の構成的グループエンカウンターの実施
- 11月 校内研修会（2学年QUの事例検討会）実施  
1学年対象の構成的グループエンカウンターの実施
- 12月 校内研修会（1学年の経過報告・検討会）の実施  
校内研修会（コーディネーターによる講座（協同学習、人間関係づくりの教材等について）の実施

※通年でコーディネーター主宰の「函館教師サポート研究会」（約月1回）に参加、報告会を実施



### 3 主な取組の内容

- 1 構成的グループエンカウンターの実施  
いじめや不登校などの問題を未然に防ぐことを目的に、意図的に生徒間交流の場を与え関係づくりを支援する手段として、8月24日（火）は2学年、11月9日（火）は1学年を対象に、LHRの時間を利用して構成的グループエンカウンターを実施した。  
コーディネーターの金山健一氏を招き、「おもしろ心理学講座」を実施。サイコエデュケーション（心理教育）の要素も取り入れ、「友だちは、財産だ」をキーワードに、いくつかの質問に対し周囲の生徒同士で意見交換しながら展開した。



### 2 教員を対象とした校内研修会（QUによる事例検討会）の実施

- 1回目：6月28日（月）1学年 ※初任者研修（地域研修）渡島管内から3名参加
  - 2回目：8月17日（火）3学年
  - 3回目：8月24日（火）2学年
- 1、3回目にはコーディネーターの金山健一氏を招き、事例発表に対する講評、対応策の検討会の進め方や検証方法、生徒個々への指導方法等についてアドバイスを受けた。  
また、11月9日（火）には再度金山健一氏を招き、1学年に係る経過報告及び個々の生徒に対する指導方法等について協議した。  
12月3日（金）には金山健一氏による講演を実施、協同学習の実施方法等についてアドバイスを受け、また教室で実践できる人間関係づくりの教材について、実際に教員同士ペアになり各種の教材（リフレーミング「短所を長所に」等）を体験した。



### 4 成果と課題

#### ○ 成果

- (1) QU・ASSESSにおける学級不満足群の生徒数の減少  
5月調査17名→12月調査10名
- (2) 保健室来室生徒数の減少  
平成21年度のべ605名→平成22年度のべ499名（4月～2月同期）
- (3) 不登校傾向の生徒の欠席日数の減少  
中学校で休みが多かった各生徒の欠席人数が減少した。
- (4) 中途退学数の減少

平成15年度からの中途退学数の推移

H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
14名	8名	6名	5名	3名	2名	1名	1名

#### ○ 課題

- (1) コミュニケーション不足などにより、対人関係のトラブルや問題行動につながるケースが見受けられた。その解決のため、さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、ピアサポートを導入するなど、より良い人間関係をつくりあげるよう内容を検討する必要がある。
  - (2) 小規模な生徒集団での生活のため、社会性の欠如した行動が見受けられた。その解決のため、地域社会における各種の体験的活動や異年代との交流を計画する必要がある。
- 次年度に向けて
- (1) 1学年におけるより良い人間関係づくりを進めるため、今年度の1学年の宿泊研修において構成的グループエンカウンター導入するなど、コミュニケーション能力の向上を図ることとしている。
  - (2) 地域の幼稚園、小・中学校、大学、老人ホームなどの異世代の人との交流や体験的な活動を実施し、生徒の社会性を高めることとしている。